

作成日: 2011/04/26

改訂日: 2022/02/28

安全データシート

【1. 化学品及び会社情報】

化学品の名称	シーラーA
供給者の会社名称	二瀬窯業株式会社
住所	〒820-0044 福岡県飯塚市横田 669
担当部署	本社工場技術課
電話番号	0948-22-0447

【2. 危険有害性の要約】

化学品のGHS分類

健康有害性	眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分 2
	生殖細胞変異原性	区分 1B
	発がん性	区分 2
	生殖毒性	区分 1A
	特定標的臓器毒性(反復ばく露)	区分 2(肝臓, 腎臓)

上記で記載がない危険有害性は、区分に該当しないか分類できない。

GHS ラベル要素

絵表示



注意喚起語	危険
危険有害性情報	強い眼刺激 (H319) 遺伝性疾患のおそれ (H340) 発がんのおそれの疑い (H351) 生殖能又は胎児への悪影響のおそれ (H360) 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ (肝臓、腎臓) (H373)

注意書き

安全対策	使用前に取扱説明書を入手すること。(P201) 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。(P202) 粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。(P260) 取扱い後は手、前腕および顔をよく洗うこと。(P264) 保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。(P280)
応急措置	眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。(P305+P351+P338) ばく露又はばく露の懸念がある場合: 医師の診察/手当てを受けること。(P308+P313) 気分が悪いときは、医師の診察/手当てを受けること。(P314) 眼の刺激が続く場合: 医師の診察/手当てを受けること。(P337+P313)

保管	施錠して保管すること。(P405)
廃棄	内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。(P501)

【3. 組成及び成分情報】

化学物質・混合物の区別	混合物
化学名又は一般名	アクリル樹脂エマルジョン

成分	濃度	化学式	官報公示整理番号		CAS 番号
			化審法	安衛法	
アクリル樹脂	31-34 %	非公開	既存	既存	非公開
3-クロロ-1,2-プロパンジオール	< 1 %	C3H7ClO2	(2)-2441,	2-(8)-62,2-(8)-76	96-24-2
1,3-ジクロロ-2-プロパノール	< 0.5 %	C3H6Cl2O	(2)-2002	2-(8)-119	96-23-1
ギ酸	0.3-0.7 %	CH2O2	(2)-670	既存	64-18-6
エタノール	3-5 %	C2H5OH	(2)-202	(2)-202	64-17-5
水	60-64 %	H2O	—	—	7732-18-5

【4. 応急措置】

吸入した場合	空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。気分が悪いときは、医師の診断／手当を受ける。
皮膚に付着した場合	直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぐ／取り除く。皮膚を流水／シャワーで洗う。
眼に入った場合	直ちに清浄な水で 15 分以上洗眼した後、医師の診断／手当を受ける。
飲み込んだ場合	口をすすぐ。直ちに医師の診断／手当を受ける。
急性症状及び遅発性症状の最も重要な兆候及び症状	不快感、頭痛、全身倦怠感を示す。
応急措置をする者の保護に必要な注意事項	汚染された衣類や保護具を取り除く。救助者が有害物質に触れないよう手袋等の適切な保護具を使用する。

【5. 火災時の措置】

消火剤	粉末消火薬剤、水溶性液体用泡消火薬剤、二酸化炭素消火薬剤、砂、霧状水
使ってはならない消火剤	情報なし
火災時の特有の危険有害性	火災によって刺激性、毒性、又は腐食性のガスを発生するおそれがある。
特有の消火方法	初期の火災には、粉末、二酸化炭素、などを用いる。 大規模火災の際には、泡消火剤などを用いて空気を遮断することが有効である。 周辺火災の場合、周囲の設備などに散水して冷却する。 移動可能な容器、包装は速やかに安全な場所に移動する。 消火のための放水等により、環境に影響を及ぼす物質が流出しないよう適切な措置を行う。
消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置	消火作業では、適切な保護具(手袋、眼鏡、マスク)を着用する。

【6. 漏出時の措置】

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	<p>屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行なう。</p> <p>漏出した場所の周辺に、ロープを張るなどして関係者以外の立ち入りを禁止する。</p> <p>処理作業の際には、保護具(ゴム手袋、保護めがね、呼吸用保護具等)を着用し、飛沫が皮膚に付着したり、ガス・蒸気を吸入しないようにする。</p> <p>風上から作業し、風下の人を退避させる。</p> <p>こぼれた場所はすべりやすいために注意する。</p> <p>多量の場合は、人を安全に退避させる。</p> <p>漏出時の処理を行う際には、必ずゴム手袋、保護めがね、保護衣等を着用する。</p>
環境に対する注意事項	<p>漏出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。大量の水で希釈する場合は、汚染された排水が適切に処理されずに環境へ流出しないように注意する。</p> <p>周辺の住民に漏洩の生じたことを通報する等の適切な措置を行う。</p> <p>漏出物を直接河川や下水などに流してはいけない。</p> <p>漏出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。大量の水で希釈する場合は、汚染された排水が適切に処理されずに環境へ流出しないように注意する。</p>
封じ込め及び浄化の方法及び機材	<p>少量の場合には、乾燥砂、土、おがくず、ウエス等に吸収させて、密閉できる空容器に回収する。大量の場合には、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いてから処理する。</p> <p>回収物や回収した洗浄水は、【13.廃棄上の注意】に従い、廃棄又は排水する。</p>
二次災害の防止策	<p>河川等に流出した場合は、必要に応じ、消防署、都道府県市町村の公害関連部署、河川管理局、水道局、保健所、農協、漁協等に連絡する。</p>

【7. 取扱いおよび保管上の注意】

取扱い	
技術的対策	<p>【8. ばく露防止及び保護措置】に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。</p> <p>【8. ばく露防止及び保護措置】に記載の局所排気、全体排気を行なう。</p>
安全取扱注意事項	<p>作業場の換気を十分に行なう。</p> <p>保護めがね、保護手袋等の適切な保護具を着用する。</p> <p>スプレーミストや蒸気を発生する作業の場合は、局所排気装置を設置するか、またはフィルター付きの保護マスクを着用する。</p> <p>取扱い後は手、顔などをよく洗いうがいをする。</p>
接触回避	情報なし
衛生対策	取扱い後は石鹸で手を洗う。
保管	
安全な保管条件	<p>凍結、直射日光を避け、換気の良い屋内に保管し、保管時の温度が 5℃以下および 40℃以上にならないようにする。使用後は、皮張り、腐敗防止のため、密閉(または密閉して速やかに使用する。</p>
安全な容器包装材料	<p>消防法及び国連危険物輸送に関する勧告で規定されている容器を使用する。</p>

【8. ばく露防止及び保護措置】

管理濃度及び許容濃度

	管理濃度	許容濃度(産衛学会)	許容濃度(ACGIH)
エタノール	未設定	未設定	TLV-STEL 1000 ppm
ギ酸	未設定	5 ppm (9.4 mg/m ³)	TLV-TWA 5 ppm TLV-STEL10 ppm

設備対策

取扱いについては、全体換気装置を設置した場所で行う。
蒸気または煙やミストが発生する場合は、局所排気装置を設置する。
取扱い場所の近くに、眼の洗浄や身体洗浄のための設備を設置する。

保護具

呼吸用保護具	防塵マスク、簡易防塵マスク、防毒マスク(有機ガス用等)
手の保護具	保護手袋
眼、顔面の保護具	保護眼鏡(普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型)
皮膚及び身体の保護具	保護服、保護長靴、保護前掛け

【9. 物理的及び化学的性質】

物理状態	液体
形状	液体
色	乳白色
臭い	微臭
融点/凝固点	融点 0°C(水)
沸点又は初留点及び沸点範囲	沸点 100 °C (水)、79 °C (エタノール)
可燃性	データなし
爆発下限界及び爆発上限界 /可燃限界	下限 3.3 vol% (エタノール) 上限 19.0 vol% (エタノール)
引火点	68 °C (セタ密閉式) (72°C以上では引火せず、燃焼点も観察されない。)
自然発火点	363 °C (エタノール)
分解温度	データなし
pH	4 - 6 (pH メーター)
粘度	1 - 150 mPa·s (23°C、BL 型、60rpm)
動粘性率	データなし
溶解度	水で希釈可能
n-オクタノール/水分係数	-0.32 (エタノール)
蒸気圧	5.8 kPa (20°C) (エタノール)
密度及び/又は相対密度	1.0 - 1.1 (23°C)
相対ガス密度	データなし
粒子特性	データなし

【10. 安定性及び反応性】

反応性	データなし
化学的安定性	密閉状態で、冷暗所では安定
危険有害反応可能性	データなし
避けるべき条件	5°C以下の低温、及び 40°C以上の高温
混触危険物質	データなし
危険有害な分解生成物	データなし

【11. 有害性情報】

製品として

急性毒性	経口	データ不足のため分類できない
	経皮	データ不足のため分類できない
	吸入	(気体)区分に該当しない (蒸気)データ不足のため分類できない (粉じん、ミスト) データ不足のため分類できない
皮膚腐食性／皮膚刺激性		データ不足のため分類できない
眼に対する重篤な損傷性／ 眼刺激性		強い眼刺激
呼吸器感受性		データ不足のため分類できない
皮膚感受性		データ不足のため分類できない
生殖細胞変異原性		遺伝性疾患のおそれ
発がん性		発がんのおそれの疑い
生殖毒性		生殖能又は胎児への悪影響のおそれ
特定標的臓器毒性(単回ばく露)		データ不足のため分類できない
特定標的臓器毒性(反復ばく露)		長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ(肝臓、腎臓)
誤えん有害性		データ不足のため分類できない

エタノールとして

急性毒性	経口	ラット LD50 7000～11000mg/kg(SIDS)、マウス LD50 8300mg/kg(SIDS)
	経皮	ウサギ LDLo 20000mg/kg(SIDS)
	吸入	(蒸気)ラット LC50(4hr) 63000ppmV(DFGMAK)、124.7mg/L(SIDS)、LCLo(7hr) >29.43mg/L(SIDS)
皮膚腐食性／皮膚刺激性		ウサギ 皮膚刺激性試験(OECD TG404、4時間) 刺激性なし(SIDS)
眼に対する重篤な損傷性／ 眼刺激性		ウサギ 眼刺激性試験(OECD TG405) 中等度の刺激性(SIDS) ウサギ 眼刺激性試験 角膜混濁/結膜浮腫等(7日以内に回復)(ECETOC) ウサギ 眼刺激性試験(100μL) 重度の刺激性(未洗浄)(IUCLID)
呼吸器感受性		軽度の喘息患者 吸入誘発試験 重度の気管支収縮(アレルギー由来でない)(DFGMAK)
皮膚感受性		ヒト アレルギー反応による接触皮膚炎等(DFGMAK) モルモット/マウス 皮膚感受性試験(マキシマイゼーション法、MEST 試験) 感受性なし(IUCLID)
生殖細胞変異原性		ラット/マウス 優性致死試験(経口投与) 陽性(SIDS、IARC)

発がん性		ラット in vivo 染色体異常試験/小核試験(飲水投与) 陰性(SIDS、IARC) (アルコール飲料)IARC グループ 1(ヒトに対して発がん性を示す) ACGIH A3(動物に対して発がん性が確認された物質であるが、ヒトへの関連性は不明)
生殖毒性		一定量以上の飲酒 流産の発生や発生のリスクの増加(IARC) 妊娠期間中のラット 経口投与試験 多指症、多合指症などの奇形(IARC) 妊婦 慣習的な飲酒 胎児:胎児性アルコール症候群(小頭症、精神障害など)(IARC、SIDS) 妊婦 出生前のエタノール摂取 口蓋裂、心房心室中隔欠損等、大量摂取:催奇形性と胎児毒性(SIDS)
特定標的臓器毒性(単回ばく露)		ヒト 吸入ばく露試験 昏迷、傾眠、軽度の麻痺(ACGIH) ヒト 吸入ばく露(蒸気) 低濃度:眼や上気道刺激(ACGIH) ヒト 重度の中毒:筋失調、霧視、昏迷、嘔気、痙攣、呼吸抑制等、呼吸または循環器不全や胃内容物吸引による死亡(PATY)
特定標的臓器毒性(反復ばく露)		ヒト 長期大量摂取:ほとんど全ての器官に悪影響、標的器官は肝臓(脂肪肝、肝壊死、肝硬変)(DFGMAK) 重度のアルコール依存症患者 振戦、痙攣等の禁断症状、脱力、不安等を伴う反射亢進等(HSDB)
3-クロロ-1,2-プロパンジオールとして		
急性毒性	経口	ラット LD50 26、55~300mg/kg(IUCLID、HSDB、RTECS)
	経皮	ラット LD50 1057mg/kg、ウサギ LD50 800 μL/kg(RTECS)
	吸入	(蒸気)ラット LC50(4hr)88~174ppm(IUCLID)、>90ppm(RTECS)
眼に対する重篤な損傷性/		ウサギ 眼刺激性試験 中等度の刺激性(HSDB、IUCLID)
眼刺激性		マウス/ラット 吸入暴露試験(蒸気、8時間) 眼刺激性(HSDB、ICSC) ウサギ 眼刺激性試験 重度の刺激性(RTECS、他社 SDS)
生殖細胞変異原性		マウス 優性致死試験(腹腔内投与/経口投与) 陰性(IUCLID) ラット 優性致死試験(経口投与) 陰性(IUCLID) サルモネラ菌/大腸菌 エームス試験 陽性(IUCLID) CHL 細胞 姉妹染色分体交換試験 陽性(IUCLID) マウスリンパ腫細胞 遺伝子突然変異試験 陽性(IUCLID) ラット in vivo 小核試験(経口投与)/不定期 DNA 試験 陰性(WHO food additives series)
発がん性		IARC グループ 2B(ヒトに対して発がん性を示す可能性がある) ドイツ MAK 3B
生殖毒性		雄ラット 単回経口投与試験 50 mg/kg:精巣精子頭部数の減少、精巣の膨張等(HSDB) 雄ラット 2週間または4週間経口投与試験 輸尿管や副睾丸に精液瘤や精子肉芽腫形成、精巣の浮腫性の変化等(HSDB) 雄ラット 14日間経口投与試験 25mg/kg:精巣や精巣上体の病変 5mg/kg 以上:精子運動能の低下(IUCLID) ラット 20日~4ヶ月間経口投与試験 25mg/kg/day:雄で精巣影響(IUCLID) 雄ラット 28日間投与試験 0.25mg/kg 以上:精子数の減少や精子運動能の低下(WHO food additives series)

特定標的臓器毒性(単回ばく露)	ラット 経口投与試験 100~200mg/kg: 腎臓で尿細管の拡張や尿細管上皮の壊死・変性(HSDB)
	ラット/マウス 経口投与試験 100~200mg/kg: 運動失調、頭部と足部の弛緩性麻痺、催眠等(HSDB)
	ラット/マウス 吸入ばく露試験 軽微な気道刺激性や眼刺激性(HSDB)
	短期暴露 眼や気道の刺激、中枢神経系に影響のおそれ(ICSC)
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	ラット 4 週間経口投与試験 60mg/kg/day: ヘモグロビン濃度や赤血球容積、赤血球数の減少、慢性進行性腎症等(IUCLID)
	ラット 90 日間飲水投与試験 9mg/kg 以上: 腎臓や肝臓重量の増加、27mg/kg: 貧血、腎臓影響等(IUCLID)
	雌ラット 104 週間飲水投与試験 25~400ppm: 慢性進行性腎症(IUCLID)
ギ酸として	
急性毒性	経口 ラット, LD50 730mg/kg (ECHA, SIDS) マウス, LD50 約 1100mg/kg (ECHA, SIDS)
	経皮 (ギ酸ナトリウム) ラット, LD50 >2000mg/kg (ECHA)
	吸入 (蒸気)ラット, LC50(4hr) 7.85mg/L (ECHA)、7.4mg/L (SIDS)
皮膚腐食性/皮膚刺激性	低 pH (< 2) (SIDS) ヒト 皮膚腐食性 (ECHA, SIDS) ウサギ 皮膚刺激性試験 皮膚腐食性/刺激性 (DFGMAK)
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	低 pH (< 2) (SIDS) ヒト 眼の損傷 (ECHA, SIDS) ウサギ 眼刺激性試験 眼腐食性/刺激性 (DFGMAK)
皮膚感作性	モルモット, 皮膚感作性試験 (ビューラー試験), 感作性なし (ECHA, SIDS)
生殖細胞変異原性	サルモネラ菌, エームス試験: 陰性 (ECHA, SIDS) CHO 細胞, 遺伝子突然変異試験 (HPRT locus): 陰性 (ECHA, SIDS) CHO 細胞, 染色体異常試験: 陰性 (ECHA, SIDS) CHL 線維芽細胞, 姉妹染色分体交換試験: 陰性 (ECHA)
発がん性	(ニギ酸カリウム(KH(COOH) ₂)) ラット, 104 週間の慢性毒性/発がん性試験 (混餌投与), 胃やその他組織: 発がん影響なし, 発がん性 NOAEL = 2000mg/kg/day (ECHA) マウス, 80 週間の慢性毒性/発がん性試験 (混餌投与), 発がんの可能性なし, 発がん性 NOAEL = 2000mg/kg/day (ECHA)
生殖毒性	ラット/マウス, 13 週間吸入毒性試験 (OECD TG413): 生殖器官、精子の運動性や密度等に影響なし, 生殖毒性 NOAEC = 0.244 mg/L (ECHA, SIDS) (ギ酸ナトリウム) ラット, 2 世代生殖毒性試験 (経口投与, OECD TG416), 親動物、生殖パラメータ、又は児に有害影響なし, 生殖能/生殖パフォーマンス/発生毒性 NOAEL = 1000 mg/kg/day (ECHA) 妊娠 6-19 日目のラット, 発生毒性試験 (経口投与, OECD TG 414), 親毒性なし, 胚毒性/催奇形性影響なし, 親毒性/発生毒性 NOAEL = 945mg/kg/day (ECHA) 妊娠 6-28 日目のウサギ, 発生毒性試験 (経口投与, OECD TG 414), 親毒性なし,

		胚毒性/催奇形性影響なし、親毒性/発生毒性 NOAEL = 1000 mg/kg/day (ECHA)
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	ヒトばく露、呼吸器の腐食性 (ECHA)	
	ラット、経口投与毒性試験、501mg/kg 以上: 呼吸困難、鎮静や運動失調、痙攣 等 (ECHA、SIDS)	
	ラット、4 時間吸入毒性試験、3.38mg/L 以上: 鼻や眼の腐食、角膜混濁、呼吸困難、無気力 等 (ECHA)	
	ラット、10 分間吸入毒性試験、44168 ppm: 重度の吸入有害性 (角膜混濁、眼や鼻の刺激) (ECHA、SIDS)	
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	ラット、13 週間吸入毒性試験 (OECD TG413)、0.244 mg/L: 上気道刺激 (軽微～軽度)、全身影響 NOAEC= 0.244mg/L (ECHA、SIDS)	
	マウス、13 週間吸入毒性試験 (OECD TG413)、0.244 mg/L: 嗅上皮の変性等、全身影響 NOAEC= 0.122mg/L (ECHA、SIDS)	
	(ニギ酸カリウム(KH(COOH)2))	
	ラット、52 週間の慢性毒性/発がん性試験 (混餌投与)、2000 mg/kg/day: 胃の肥厚等、全身影響/局所影響 NOAEL= 400 mg/kg/day (ECHA)	
	ラット、13 週間反復投与毒性試験 (混餌投与)、600mg/kg/day 以上: 前胃の刺激や扁平上皮の過形成、NOAEL <600mg/kg/day(ECHA)	
1,3-ジクロロ-2-プロパノールとして		
急性毒性	経口	ラット LD50 110～122mg/kg(初期リスク評価書)、81mg/kg、110mg/kg(環境省リスク評価)
	経皮	ウサギ LD50 800mg/kg(初期リスク評価書)、590mg/kg、0.8mL/kg(環境省リスク評価、RTECS)
	吸入	(蒸気)ラット LC50(24hr) 130～595ppm(初期リスク評価書)、LCLo(4hr) 125ppm(初期リスク評価書、環境リスク評価、RTECS)
皮膚腐食性/皮膚刺激性	ウサギ 皮膚刺激性試験(24 時間) 刺激性あり(初期リスク評価書、RTECS)	
		軽度の皮膚刺激(ICSC)
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	ウサギ 眼刺激性試験 重度の刺激性(初期リスク評価書)	
		眼刺激性(ICSC)
生殖細胞変異原性	ラット/マウス in vivo 小核試験 陰性(環境リスク評価、NTP)	
	ラット in vivo 不定期 DNA 合成試験 陰性(環境リスク評価、NTP)	
	大腸菌 DNA 修復試験 陽性(初期リスク評価書、環境リスク評価)	
	大腸菌 SOS 修復試験 陰性(初期リスク評価書、環境リスク評価)	
	CHL 細胞/CHO 細胞 姉妹染色分体交換試験 陽性(初期リスク評価書、環境リスク評価)	
	サルモネラ菌 エームス試験 陰性/陽性(初期リスク評価書、環境リスク評価)	
	マウスリンフォーマ試験 陽性(初期リスク評価書、環境リスク評価)	
	CHO 細胞 染色体異常試験 陽性(初期リスク評価書、環境リスク評価)	
発がん性	IARC グループ 2B(ヒトに対して発がん性を示す可能性がある)	
	EU カテゴリー2(ヒトに対して発がん性であるとみなされるべき物質)	
生殖毒性	雄ラット 単回皮下投与試験 43.7mg/kg: 精巣上体精子数の軽微な減少(初期リスク評価書、環境リスク評価)	
	雄ラット 8 日間強制経口投与試験 交尾不成立、雌で胚形成なし(初期リスク評価)	
	雄ラット 14 日間強制経口投与試験 睾丸重量及び睾丸や精管の形態等に影響なし NOAEL=20	

	mg/kg/day(環境リスク評価)
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	ヒト 清掃作業暴露 全身倦怠感、吐き気、嘔吐、急性肝障害(劇症肝炎)、死亡(初期リスク評価書) 動物種不明 皮下投与試験/腹腔内投与試験 嗜眠、血液成分影響(白血球や血小板数の減少等)、劇症肝炎(重度の肝細胞の空胞変性、委縮及び巣状壊死及び溶血等)、腎臓影響(尿細管上皮細胞の壊死等)(初期リスク評価書) 経口摂取 喉、胃に激しい刺激性(環境リスク評価、HSDB) 眼や呼吸器の刺激(HSDB、ICSC)
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	雌雄ラット 13 週間強制経口投与試験 10mg/kg/day 以上:胃、肝臓及び腎臓の病理組織変化、100mg/kg/day:血液成分の減少や増加、前胃粘膜下組織の浮腫や潰瘍、肝細胞核小体肥大、鼻腔の病理組織変化 NOAEL=1mg/kg/day(初期リスク評価書、環境リスク評価) 雌雄ラット 104 週間飲水投与試験 27ppm 以上:肝重量や肝ペリオシス等の増加、80ppm 以上:腎臓重量の増加、クッパー細胞のヘモジデリン沈着、ヘモグロビン濃度等の低下、肝細胞の脂肪変性、240ppm:血液成分の減少や増加 LOAEL=27ppm (雄: 2.1mg/kg/day、雌: 3.4mg/kg/day)(初期リスク評価書、環境リスク評価) 雄ラット 14 日間経口投与試験 20mg/kg/day:精巣輸出管に精液瘤(初期リスク評価書) 肝臓や腎臓に影響のおそれ(ICSC)

【12. 環境影響情報】

生態毒性

水生環境有害性 短期(急性)	データ不足のため分類できない
水生環境有害性 長期(慢性)	データ不足のため分類できない
エタノールとして	魚類(ファットヘッドミノー)LC50(96hr)>100mg/L(SIDS) 甲殻類(ネコゼミジンコ)LC50(48hr)5012mg/L(SIDS) 藻類(クロレラ)EC50(96hr)1000mg/L(SIDS)
3-クロロ-1,2-プロパンジオールとして	魚類(ラスボラヘテロモルフア)LC50(48hr)2100mg/L(IUCLID) 魚類(キンギョ)LC50(24hr)≥5000mg/L(IUCLID)
ギ酸として	甲殻類(オオミジンコ)NOEC(21day)100mg/L(ECHA、SIDS) (ギ酸アンモニウム) 魚類(ゼブラフィッシュ)LC50(96hr)130mg/L(ECHA) 甲殻類(オオミジンコ)EC50(48hr)365mg/L(ECHA) 藻類(ムレミカツキモ)EC50(72hr)1240mg/L(ECHA) 藻類(ムレミカツキモ)NOEC(72hr)<76.8mg/L(ECHA) (ギ酸カリウム) 魚類(ニジマス)LC50(96hr)3500mg/L(ECHA) 甲殻類(オオミジンコ)EC50(48hr)540mg/L(ECHA) 藻類(ムレミカツキモ)NOEC(72hr)>500mg/L(ECHA)
1,3-ジクロロ-2-プロパノールとして	魚類(メダカ)LC50(96hr)>100mg/L(環境リスク評価、初期リスク評価書) 甲殻類(オオミジンコ)EC50(48hr)725 mg/L(環境リスク評価、初期リスク評価書) 藻類(ムレミカツキモ)ErC50(72hr)545mg/L、NOEC(72hr)100mg/L(生態影響試験結果、初期リス

ク評価書)

残留性・分解性

エタノールとして	生分解性試験(2週間) 良分解性(既存点検)
3-クロロ-1,2-プロパンジオールとして	生分解性試験(2週間) 分解率 68%(BOD法)(HSDB)
ギ酸として	生分解性試験(OECD TG301C、14日間) 易分解性(既存点検、ECHA)(ギ酸カリウム)
1,3-ジクロロ-2-プロパノールとして	生分解性試験(OECD TG301D、28日間) 易分解性(ECHA)
1,3-ジクロロ-2-プロパノールとして	生分解性試験(28日間) 良分解性(既存点検、初期リスク評価書、環境リスク評価)

生体蓄積性

3-クロロ-1,2-プロパンジオールとして	BCF=0.2(計算値)(HSDB)
ギ酸として	logPow=-2.1(23°C)(ECHA、SIDS)
1,3-ジクロロ-2-プロパノールとして	BCF=3.2(計算値)(初期リスク評価書、環境リスク評価)

土壤中の移動性

情報なし

オゾン層への有害性

データ不足のため分類できない

他の有害影響

河川等に流入した場合、エマルジョン中の樹脂の粘着性の影響で呼吸困難が生じ、魚類が死亡する可能性がある。

【13. 廃棄上の注意】

残余廃棄物

焼却する場合、関連法規・法令を遵守する。

廃棄する場合、都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物の収集運搬業者や処分業者と契約し、廃棄物処理法(廃棄物の処理及び清掃に関する法律)及び関連法規・法令を遵守し、適正に処理する。

汚染用器及び包装

空の汚染容器・包装を廃棄する場合、内容物を除去した後に、都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物の収集運搬業者や処分業者と契約し、廃棄物処理法(廃棄物の処理及び清掃に関する法律)及び関連法規・法令を遵守し、適正に処理する。

【14. 輸送上の注意】

国連番号	非該当
国内規制	非該当
海洋汚染物質	非該当
MARPOL 73/78 附属書 II 及び IBC コードによるばら積み輸送される液体物質	非該当

輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策

運搬に際しては容器の漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないように積み込み、荷崩れの防止を確実にこなう。移送時にイエローカードの保持が必要。食品や飼料と一緒に輸送してはならない。(参考資料:日本エマルジョン工業会編「合成樹脂エマルジョンの輸送事故対策指針」)

応急措置指針番号

171 に準じた取り扱いを推奨する。

【15. 適用法令】

労働安全衛生法	名称等を表示すべき危険物及び有害物(法第 57 条第 1 項、施行令第 18 条第 1 号、第 2 号別表第 9) 名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第 57 条の 2、施行令第 18 条の 2 第 1 号、第 2 号別表第 9) エタノール(政令番号 61)
毒物及び劇物取締法	非該当
化学物質排出把握管理促進法 (PRTR法)	非該当
化審法	優先評価化学物質(法第 2 条第 5 項) ギ酸
消防法	指定可燃物、可燃性液体類(法第9条の4、危険物規制令別表第4)
大気汚染防止法	揮発性有機化合物(法第 2 条第 4 項)(環境省から都道府県への通達) 揮発性有機化合物 揮発性有機化合物 法第 2 条第 4 項(平成14年度VOC排出に関する調査報告) 揮発性有機化合物
海洋汚染防止法	有害液体物質(Y 類物質)(施行令別表第 1) ギ酸, クロロヒドリン 有害液体物質(Z 類物質)(施行令別表第 1) エチルアルコール
特定有機廃棄物輸出入規制法 (バーゼル法)	特定有害廃棄物(法第2条第1項第1号イ、平成30年環境省令第12号) ロに掲げる有機溶剤を含む物 イに掲げる有機溶剤を含む物 イ、ロ又はハに掲げる有機ハロゲン化合物以外の有機ハロゲン化合物を含む物 イに掲げる有機ハロゲン化合物を含む物

【16. その他の情報】

本安全データシートは、現時点で入手できる資料、データに基づいて作成しておりますが、新しい知見により改訂されることがあります。また、安全データシート中の注意事項は通常の取扱いを対象にしたものです。製品使用者が特殊な取扱いをされる場合は用途、使用法に適した安全対策を実施の上、製品を使用して下さい。また、弊社は安全データシート記載事項について十分注意を払っていますが、その内容を保証するものではなく、本データシートに記されていない弊社が知見を有さない危険性がある可能性があります。